

# 土佐清水市漁業士連絡協議会の活動支援

土佐清水漁業指導所 田中 舜和 渡邊 実紗

## 1 要約

土佐清水市漁業士連絡協議会（以下、同会）は、後継者指導や地域漁業の振興を目的に、活動を行っている。当所は同会の事務局として各種活動を支援しており、令和6年度は、各種会の開催、魚食普及活動、研修会の実施などを支援した。

## 2 背景及び目的

漁業士とは、地域漁業の発展や漁業後継者の確保育成に貢献するものとして、都道府県知事が認定するもので、優れた漁業経営を行い地域における指導的役割を担う者を指導漁業士、意欲的に漁業に取り組み、地域のリーダーとして先導的役割を担う青年を青年漁業士として位置づけている。

同会は、平成6年に土佐清水市の漁業士が組織したもので、令和6年度の構成員は指導漁業士11名と青年漁業士3名の計14名となっている。地域漁業の発展に貢献することを目的として、先進地視察や他地域漁業者との交流を通して漁業技術・経営の向上を図るとともに、魚食普及活動によって後継者育成や地元水産物のアピールに繋げる活動を行っている。

当所は、同会の事務局として各活動が円滑にできるよう、事務手続及び情報収集等の支援を行った。

## 3 普及の内容及び特徴

### （1）総会及び役員会の開催

同会の運営に重要な会議実施を事務局として支援し、総会1回を開催した。

### （2）魚食普及活動

同会では、土佐清水市で獲れた魚を使用し、参加者に捌き方および調理方法を教えることで、地元で獲れる魚のおいしさを知ってもらい、各家庭での魚食機会の増加に向けた魚食普及活動を行っている（図1）。当所は調理メニューの提案、各施設の担当者との活動内容の打合せおよび当日使用する魚の確保などを支援した。

### （3）研修会・交流会の実施および参加

令和6年度に同会は和歌山県すさみ町、串本町への視察研修、和歌山県漁業士との交流会を実施し、当所はそれぞれの開催を支援した。

## 4 成果及び活用

### (1) 総会及び役員会の開催

令和7年2月24日に開催した総会では、会員12名が出席し、当年度の活動実績及び収支決算の報告、令和6年度の活動計画、収支計画及び役員改選についての協議が行われ、全てで事務局案が承認された。また、指導漁業士一名が、高齢となり漁業を引退することに併せて退会することとなった。

### (2) 魚食普及活動

表1に令和6年度の魚食普及実績を示した。

当活動は、主催団体（子育て支援施設、高校）からの要請を受けて行っている。特に子育て支援施設「どんぐりっこ」でイベントの後に実施したアンケートでは、例年、全参加者から「家庭での魚料理の割合を増やしたい」との回答を得ており、当活動が魚食の普及において有意義なものになっている。また、参加者からは「今後も続けていくべき」との意見も多く、会員自身もやりがいを感じており、今後も継続して取り組みたいと考えている。

一方、イベントの進め方に関しては、いくつかの改善が必要な点も見つかった。まず、揚げものについては、安全性を考慮して、当所職員が作業にあたったが、フライヤーなどの使用機材の数も少なく、時間がかかり、その間参加者を待たせることとなった。調理する量を減らしたり、材料を加熱しやすい形状にするなどの対策が考えられた。また、乳幼児を体の前で抱くスリングを使用している参加者も多く（図2）、調理に際しては、不便な面も見受けられたため、後ろで抱くおぶいひもを使用するか、資格を有する施設の職員が交代で面倒を見るなどの対応が必要と思われた。

### (3) 研修会・交流会の実施および参加

表3に令和6年度の研修会および交流会の開催実績を示した。

令和6年10月21日に、土佐清水市漁業士連絡協議会の漁業士5名及び当所職員1名で和歌山県のすさみ町及び串本町を訪問した。

#### ア すさみ潜行板製作所の視察

今回の視察の目的の一つに近年入手の難しくなっているめじか曳縄漁に使用する潜行板の購入先の確保があり、現地でカツオ曳縄漁に使用する潜行板（以下、カツオ板という。）の制作を行っているすさみ潜行板製作所等を訪問して、情報収集及び漁具作成に向けた働きかけを行った（図3）。すさみ潜行板製作所では、サーファーであった事業主がサーフボードの制作を行っていたところ、地元漁業者の強い要望を受けカツオ板の制作を始めたのがきっかけで、現在は主に和歌山、三重、静岡の漁業者からの注文を受けてカツオ板を作成している（図4）。全工程を1人で行っているため、月に50～60枚作るのが限度で注文に追いつかない状況になっているとのこと。視察後先方からは、「一度、試作品の製作を検討してみる」との回答を得ることがで

きた。

漁業で就業人口が減少するなか、漁業を取り巻く関連産業も衰退していると考えられる。漁具の制作を生業とする事業者においても高齢化が進み廃業が増えており、すさみ潜行板製作所のような比較的若い事業者の元に注文が殺到するようになっている。このような事業者を増やすためには、ハンドクラフトの技術を持つ職人等と漁業者とのマッチングが必要になってくるため、今後も、当協議会の活動の中で地道な情報収集を行い、マッチングに繋げていきたい。

#### イ 和歌山県漁業士との交流会

串本町では、県内の漁業士5名に加え、県漁連、和歌山県職員も参加して、黒潮大蛇行期の沿岸釣り漁業の変化等について意見交換を行った（図5）。和歌山では黒潮の大蛇行期に入り、ビンナガマグロの漁獲が増えたことから、漁法もそれに合わせたものになっている。要因として、通常の黒潮の流路では、春先に和歌山沖を通過して沖縄の方に南下していた群れが、蛇行した黒潮の流れに合わせて沖に向かい、再度和歌山沖の浮魚礁に戻って来ているため、年に2回の来遊となることで漁獲が増えているとのこと。そのため四国沖では、流路がそれる（南下したマグロのルートから外れる）ため大蛇行期のビンナガマグロの漁は見込めないのではないかとの意見もあった。高知では大蛇行期に入りキハダマグロの漁獲量が増え、漁業者もキハダ釣りにシフトしていることから和歌山も高知も環境の変化に対応して、その時に釣れるものに漁業種を変化させていることが分かった。

また、漁法や漁具に関する説明では（図6）、和歌山県で現在行っているジャンボ漁は、40年前に和歌山県の漁業者が高知視察に来高した際に高知の漁業者から教わった漁法で、今では和歌山県の主要漁業種の1つになっているとのこと。加えて、和歌山県で販売されているカツオ板の1種に、四国の業者が作成した板（未塗装）を和歌山県の業者が仕入れて青く塗装して販売しているものがあり、釣れ行きが良く漁業者からは好評であるとの話もあった。漁法や漁具に関して、地域間の交流が以前からあり、このような交流が環境変化等に対応する多様性を生み出すことにも繋がっていると思われた。



図 1. 漁業者による捌き方指導



図 2. スリングを使用した状態での調理



図 3. すさみ潜行板製作所



図 4. 作成途中のカツオ用潜行板



図 5. 和歌山県漁業士との意見交換会



図 6. 漁具や漁法に関する説明

表 1. 魚食普及活動実績

実施日	実施場所	参加者	講師	内容
令和6年6月27日	土佐清水市中央公民館	子育て支援施設「どんぐりっこ」に通う児童の保護者 4名	漁業士 2名と その妻 1名 当所 4名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サバの捌き方指導</li> <li>・魚の南蛮漬、フリッター作り</li> <li>・魚のだし汁作り</li> </ul>
令和7年1月23日	土佐清水市中央公民館	子育て支援施設「どんぐりっこ」に通う児童の保護者 9名	漁業士 2名と その妻 1名 当所 3名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アジの捌き方指導</li> <li>・アジとブリの漬け井作り</li> <li>・アジのフライ、ぶり大根</li> </ul>
令和7年2月5日、14日	清水高等学校	清水高校 1年生42名 ※延べ数	漁業士12名と その妻 2名 当所 6名 ※延べ数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メジカの捌き方及びすり身作り指導</li> <li>・すり身天ぷら、つみれ汁作り</li> <li>・魚飯作り</li> </ul>

表 2. 研修会および交流会の開催実績

項目	日時	場所	参加者	内容
岸要漁具店視察	令和 6 年 10月21日	和歌山県すさみ町岸要漁具店	漁業士 5 名 当所 1 名	・トローリングヘッドに関する情報収集
すさみ漁港視察		和歌山県すさみ町すさみ漁港		・地元サンゴ漁業者からの情報収集
すさみ潜行板製作所視察		和歌山県すさみ町すさみ潜行板製作所		<ul style="list-style-type: none"> <li>・潜行板製作に関する情報収集</li> <li>・メジカ用潜行板製作に関する働きかけ</li> </ul>
和歌山県漁業士との意見交換会		和歌山県串本町串本市場 2 階会議室		<ul style="list-style-type: none"> <li>・黒潮大蛇行期の漁況について</li> <li>・漁具や漁法に関する説明</li> </ul>